



たてやま おらがんまつち



館山市正木地区 川崎組

赤穂浪士四十七士 彫刻屋台

地域の紹介

川崎は、旧那古町の那古地区に属しますが、正式な地域名は正木です。那古地区大芝と湊川(平久里川とも呼ばれています)に挟まれた地域で、西は正木の浜方まで入ります。岡町、上町、中町、下町、希望ヶ丘、浜町の五集落からなり、現在は三百戸からなります。祭礼は那古と正木にありながら、那古、正木の祭礼には属さず、川崎独自の祭礼を執り行っている歴史豊かな地域です。



●人形屋台 ●製作: 明治25年7月吉日新造 ●全長約4.8m、全高約4.2m、全巾約3.4m ●彫刻: 彫刻師 後藤喜三郎 橘義信、柱彫刻・岩と桜花に瀧、昇龍降龍、欄干赤穂浪士「四十七士吉良邸討ち入り」、破風双竜、他多数 ●修復: 平成23年5月吉日修復完了(棟梁・二代目 後藤義徳) ●人形: 佐久間の人形師による ●提灯: 胡瓜と葉に巴、岡万作浜大漁に巴 ●泥幕: 八に雲の図柄、波に千鳥 ●向拝幕: 赤地に金の鶴 ●半纏: 背に八と雲の図柄、襟に川左紀「変体文字」

この地域で支えたという地元の歴史に因んだ「赤穂浪士四十七士吉良邸討ち入り」の彫刻は、他に類をみない貴重なものです。



赤穂浪士「四十七士吉良邸討ち入り」の彫刻(部分)

自慢の屋台

川崎組には、明治二十五(一八九二)年七月に製作された屋台があります。安房の名工・後藤喜三郎橘義信により川崎地域の祭神や信仰、さらに歴史に因んだ題材の彫刻が屋台全面に余すことなく彫り込まれた自慢の屋台です。

その中でも特に、宝永七(一七一〇)年より、再興された赤穂浅野家の財政をこ



平成23年大修復前の川崎組屋台